

2026年 7 月 27 日

各 位

会 社 名 ラクオリア創薬株式会社
代 表 者 名 代表取締役 須藤 正樹
(コード番号: 4 5 7 9)
問 合 せ 先 執行役員経営管理部門担当 志水 幹憲
(TEL. 052-446-6100)

胃酸分泌抑制剤tegoprazanの韓国における新たな適応症追加に関するお知らせ

このたび、当社のライセンス先であるHK inno.N Corporation（本社：韓国・オソン、以下「HKイノエン社」）より、当社がHKイノエン社に導出した胃酸分泌抑制剤tegoprazan（韓国製品名：K-CAB®、以下「tegoprazan」）につきまして、韓国において新たに「NSAIDs（非ステロイド性抗炎症薬）投与に伴う消化性潰瘍の予防」にかかる適応症が追加されたことが発表されましたので、お知らせいたします。

今回追加されたNSAIDs投与に伴う消化性潰瘍の予防の適応症は、NSAIDsを長期間投与される患者を対象として実施された臨床試験（以下「本試験」）の結果に基づくものです。高齢化の進展に伴う慢性疼痛患者の増加を背景に、NSAIDsの使用機会は拡大しており、長期投与時における消化性潰瘍の予防は重要な医療ニーズの一つとなっています。

本試験では、tegoprazan 25 mgとプロトンポンプ阻害剤（PPI）であるランソプラゾール15 mgを比較し、胃潰瘍および十二指腸潰瘍の予防効果ならびに安全性を評価しました。その結果、主要評価項目である24週時点での胃潰瘍および十二指腸潰瘍の発生率において、tegoprazanが比較対照薬に対する非劣性を示したことが報告されています。また、12週時点では胸やけ症状が認められなかった被験者の割合は、比較対照薬群と比べて統計学的に有意に高いものでした。さらに、本試験では合計11種類のNSAIDsが使用され、24週間の投与期間における安全性が評価されました。対象となったNSAIDsには、ペルビプロフェン、ナプロキセン、メロキシカム等の非選択的NSAIDsおよびセレコキシブ等のCOX-2選択的阻害薬が含まれています。

今回の適応症追加により、韓国におけるtegoprazanの適応症は、びらん性胃食道逆流症、非びらん性胃食道逆流症、胃潰瘍、ヘリコバクター・ピロリ除菌のための補助療法、びらん性胃食道逆流症治癒後の維持療法、およびNSAIDs投与に伴う消化性潰瘍の予防の6つとなり、韓国における同クラスの医薬品の中で最も多くの承認適応症を有する製品となりました。

Tegoprazanは、当社が創出したカリウムイオン競合型アシッドブロッカー（Potassium Competitive Acid Blocker : P-CAB）と呼ばれる新しい作用機序の胃酸分泌抑制剤です。P-CABは、胃食道逆流症治療の第一選択薬であるプロトンポンプ阻害剤（PPI）とは異なるメカニズムで、PPIよりも速やかに、かつ、持続的に胃酸分泌を抑制するという特長を持つ新世代の治療薬です。Tegoprazanは、HKイノエン社により販売名「K-CAB®」として2019年に韓国で販売され、2026年4月には韓国国内売上（院外処方実績）が累積で1兆ウォン（約1,100億円）を超える大型製品となっており、韓国における胃酸分泌抑制剤市場でのシェア第1位を維持しております。Tegoprazanは、日本を含む世界57カ国で開発・製造・販売等の事業活動が行われており、tegoprazan製品が販売されている国は20カ国に達しております。

当社は、HKイノエン社とのライセンス契約に基づき、HKイノエン社が提携先から受領する収益の一部を受け取る権利を保有しております。本件による2026年12月期（2026年1月1日～2026年12月31日）の通期連結業績への影響は現時点では限定的であり、2026年2月13日に公表した2026年12月期（2026年1月1日

～2026年12月31日）の通期連結業績予想に変更はございませんが、本件は、韓国におけるtegoprazanの市場浸透の拡大に資するものであり、当社グループの中長期的な企業価値向上に資するものと考えております。

当社は今後も引き続き、HKイノエン社との連携をより強固にし、開発支援並びにサブライセンス契約支援を継続して実施し、胃酸関連疾患治療の選択肢を広げることで、患者さまのQOLの向上に一層貢献できるよう努めてまいります。

以上

HKイノエン社の公式発表につきましては、HKイノエン社のホームページよりご覧ください。

HK イノエン社ウェブサイト（韓国語）：https://www.inno-n.com/pr/news/view/1/1118?sch_text=